

赦すとは

シリーズ～神の知恵～

2019/8/4

平和祈念礼拝

他者を知る 6/13~8/10

- 友情 6/13~18
- 言葉 6/19~7/12
- ゴシップ 7/13~15
- 聴くこと 7/16~24
- 対立(人間関係) 7/25~8/10
 - 不和を避ける 7/25~8/1
 - 赦し、愛を育む 8/2~5
 - 困った時には 8/6~10

赦すとは

「人がわたしにするように／わたしもその人に対してしよう。それぞれの行いに応じて報いよう」とは／あなたの言うべきことではない。(24:29)

• 仕返ししてやろうと思わない

- 「私たちは、心の中では、『自分がやられたように仕返ししてやろう』と言うでしょう。箴言は、意図的にその考えを拒むよう、**つまり自分自身にそのように語りかけるな、**と教えています」

• 仕返ししようとする思いで心が歪む

- 「罪にあふれた憤りはカインを支配しました(創世記4:6-7)」

赦すとは

愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。ローマ12:19

・相手に責任を負わせることを拒む

- ・「赦すとは、誰かが私たちにしたこと**の責任を、彼らに負わせることを拒むこと**です。[責任を負わせるのは]神の仕事で、私たちがすることではありません。」

・復讐しないばかりか自分で背負う

- ・「しかし赦すことは、それをしない決意をしてむしろその代価を自分で負うことです」

赦すとは(より具体的に)

• 直接傷つける気持ちを抹殺する

- 「わずかでも報いを支払わせてやろうという密かな願いに気づきましょう。過去を何度も引きずるのはやめましょう。」

• 間接的な復讐もしない

- 「避けたり、冷たくあしらったり、…当てこすりや噂話で相手を『要注意人物』のように見せかける」

• 悪い思い出を繰り返し再生しない

- 「[悪い思い出を再生すると]、喪失感や心の傷が鮮明かつリアルに保たれ、相手に対して敵意と、自分の優越感がいつまでも無くならない」

愛を育む／一歩進んで

愛を求める人は罪を覆う。前言を翻すものは友情を裂く。(17:9)

- 敵でなくなるだけでなく友となる

- 「ただ仕返しをしないというだけでは十分ではありません」

- 真実を話す

- 「聖書が助言することは私たちが通常行うことの正反対です。私たちは、不当に扱われると、心の内では憤慨していても何も言いません。しかし【聖書は】、心の内で赦し、更に真実を話すように召しています。」

愛を育むプロセス(より具体的に)

- **こちらから行動を起こす**
 - 「まず、行動を起こすのはあなたの方からです(マタイ5:24、18:15)」
- **事実関係を双方の視点から明らかにする**
 - 「彼(ら)からの批判を注意深く聞いてください。すぐ自己防御したり説明しようとしてはいけません
- **(必要なら)第三者の意見を聞き、終結する**
 - 「どの場面で彼らがあなただを不当に扱ったと感じているか、落ち着いて伝えましょう」
 - 「相手に伝え、そのことを認めるなら喜んで終わりにする」

赦しの階段



十字架を背負って従う

- 「あなたは、罪の代価を背負うことによって、あなたの主の道を歩くことになるのです」
- 「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。」コロサイ3:13

祈り

「主よ、私の赦しはうわべだけです。敵対する相手に仕返しをしてやろうというあからさまな行動からは遠ざかっていますが、心は煮えたぎっています。怒りと自己憐憫を遮断するのは非常に困難な作業です。赦された罪人であることを思い出し、彼らのために心から祈れる者として下さい。しかし、あなたの犠牲の愛の光の中で、私は代価を払う決意をします。主よ、助けてください。アーメン。」